

2003.5.23
弁護士中川瑞代

アメリカンドリームから心の平安へ

それは、アメリカの成功者たちの姿を描写するドキュメンタリー番組でした。そこに描かれた成功者たちは、塙で囲まれ厳重に警備されたゲートで守られた住宅街の中に大きな屋敷を手に入れ、贅沢に暮らし、中の人間たちだけでパーティーやお祭りを催しています。

彼らの生活は一見まぶしく華やかであり、何の不足も無いように見えます。でも、彼らの心の中に「平安」はあるのでしょうか。彼らは、ゲートの外に貧困にあえぐ人たちがいることを知っているはずですが、そうでなければ塙を巡らした中に住むこともないでしょう。再びゲートの外に出たくなければこれからも過酷な競争社会で勝ち続けなければならないのです。これが本当に彼らの求めている理想の生活でしょうか。こうした社会に未来を生きる子ども们的ことを考えると、問題はもっと深刻です。大人たちは、子供たちの目をふさぎ、敗者を生む社会の矛盾に目を閉ざし、勝者を夢見させ、他人を思いやることより、敗者を切り捨てて生きることを教えていないのでしょうか。

最近、イラク問題にからみ、アラブの人たちの暮らし方・考え方が紹介されることが多くなりましたが、アラブ社会ではアメリカ型自由競争社会とは対極とも言える考え方が通用しているようです。たとえば、私たちは、物を買うとき大量に買えば安くなって当然と考えています。でも、アラブでは逆に、一度にたくさん買うなら高いお金を払うべきことになるということです。なぜなら、一度に買われてしまうと必要な人に売的商品が不足してしまうかもしれないし、必要以上にたくさん買うくらいならたくさんお金を持っているだろうから高く払いなさい、ということになるのだそうです。

また、元 NHK のアナウンサーだった下重暁子さんが、アラブ滞在中の経験を報告しています。アラブ人の運転手の案内で観光地に行き、何でも値切って買えと友人に言われていたので、友人たちと安い土産を更にさんざん値切って買い得意になっていたそうです。ところが、案内してくれた運転手は相手の言い値で土産を買っていたそうです。なぜみすみす損をするのかと思って理由を聞いたところ、運転手が、「相手は自分より貧しいから」と答えたそうです。それを聞いて、下重さんは、売子よりはずっと金持ちの自分たちが、その売子の大事な商品を安く買い叩いて得意になっていたのだと気が付き、顔から火が出るほど恥ずかしかったということです。

このように、アラブでは「持てる人は持たない人に与えなければならない」という考え方が行き渡り、お金持ちでなくとも一人一人が、より貧しい人から奪わないという考え方に従いながら生活している。与えることを喜びと感

じる心が育てられているのだそうです。お金があるのにため込んでいて他人のために使わない人は尊敬されないとのこと。

どちらの考え方で生きるのが幸せでしょうか。私は、人間は、物質的満足だけでは幸せになれないと思います。

近年、会社人間となることを拒否してフリーターとして働いている若者が増えているようです。彼らは、自らが幸せになるための仕事、心から幸せを感じられる働き方を探しているように思われます。

大人たちも若者にならって、自分や他人を傷つけることのない労働・必要なものを生み出す喜びが感じられる労働・自分を生かすことが他者を生かすことにつながる労働、そういった労働に向け、まず、アメリカンドリームから自由になる必要があります。そして、心から幸せを感じられる働き方を探すとき、アラブ社会の考え方は大きなヒントになると思われます。

以上